

会 議 録

会議の名称	平成26年度第3回茨木市環境審議会
開催日時	平成26年8月26日（火） （午前） ・午後）10時00分 開会 （午前） ・午後）11時40分 閉会
開催場所	市役所南館3階 防災会議室
議 長	圓入 克介
出席者	石山 郁慧、圓入 克介、久米 辰雄、天保 好博、箱田 正輝 藤田 紫、三輪 信哉、武蔵野 實、山田 俊一 【9人】
欠席者	玉井 昌宏、今堀 洋子、村瀬 径介 【3人】
事務局職員	西林産業環境部長、大神産業環境部次長兼農林課長、 上田建設部次長兼公園緑地課長、池田市民生活課長、松本環境政策課長、 中村環境事業課長、神谷環境保全課長、古谷下水道課長、 松山環境政策課課長代理、上村環境事業課環境衛生センター所長、 金馬農林課管理係長、井澤環境政策課政策係長、 谷口環境政策課新エネルギー係長、水垣公園緑地課緑地推進係長、 江濱環境政策課職員、 森野客員研究員、大友研究員（㈱地域計画建築研究所 大阪事務所） <div style="text-align: right;">【17人】</div>
開催形態	公開
議題・報告	【議 題】 ・ 茨木市環境基本計画（案）について 【報 告】 ・ 茨木市地球温暖化対策実行計画に係る指標の設定について
配布資料	・ 茨木市環境基本計画（案） ・ 資料1 第2回環境審議会での意見等に関する対応 ・ 資料2 茨木市環境審議会の開催状況及び今後の予定 ・ 資料3 茨木市地球温暖化対策実行計画に係る指標の設定について

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>【開 会】</p>
事務局	茨木市環境審議会規則第3条第1項の規定により、圓入会長に議長をお願いしたい。
会 長	平成26年度第3回茨木市環境審議会を始める。本日の委員の出席状況について、事務局から報告をお願いします。
事務局	委員12人のうち、9人に出席いただいている。
会 長	過半数の委員の出席をいただいております、会議は成立しています。
	<p>【議 題】</p>
会 長	前回に引き続き、茨木市環境基本計画について議論をしていくが、その進め方について、事務局から説明をお願いします。
事務局	<p><資料1 説明></p> <p>また、本日は、前回に引き続き第2章「基本施策4 きちんと分別で資源の循環をすすめる」からご意見をいただきたい。</p> <p><資料2 説明></p>
会 長	事務局からの説明どおり、本日は第2章『基本施策4 きちんと分別で資源の循環をすすめる』から取組方針ごとに意見をいただくこととする。
	<p>『取組方針（1） 減量化の推進』</p>
会 長	44・45ページ、『取組方針（1）減量化の推進』について意見等はないか。
C委員	16ページで現状分析をしっかりとしているため、『取組方針（1）減量化の推進』の『②現状と課題』についても、目標達成のための方向性等を具体的に記載してはどうか。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	16 ページの現状と課題については現行環境基本計画の検証結果を記載しているが、『取組方針（1）減量化の推進』の『②現状と課題』については、本計画が一般廃棄物処理基本計画の上位計画であることや、他の取組方針の記載内容等を考慮し、大きな方向性のみの記載としている。
G 委員	量販店では、タイヤや布団等の家庭で処分しにくいごみを店舗駐車場に捨てられるため、産業廃棄物等として処理をしている。このように、適正な処理をしていない市民等もいるため、市民等のマナーを向上させる取組をお願いしたい。布団や古着の下取りを定期的の実施し、持ち込まれた方には割引券を配布しているが、使用されず、ただ、下取りだけを行っているのが現状である。
事務局	市民等に対して、ごみ捨てに関するマナーについて周知・啓発していく。
B 委員	市ホームページで「エコオフィスプランいばらき」の推進状況を見たが、市のごみ排出量がかなり減少しているため、市が実践している取組を市民等にも周知してはどうか。
事務局	家庭で応用できる部分は少ないかもしれないが、事業者には参考になるノウハウであるかもしれないので、紹介していきたい。
F 委員	茨木市の環境家計簿は、他市の環境家計簿にはないごみ減量の部分があるため、これを活かした取組はできないか。また、家計簿の内容について、数年前までは毎月記載できる内容であったが、近年は内容が縮小され記載しにくくなっていると聞くが、どのように考えているか。
事務局	環境家計簿を活かした取組については、今後検討していく。また、環境家計簿の内容については、大きな変更をしていないが、冊子形状からパンフレット形状にすることで、印刷費等の抑制を図っている。今後、利用者からの声を聞きながら、作成方法について検討していく。
I 委員	『⑤各主体の取組』にある茨木市事業系ごみ減量化推進懇話会とはどのようなものか。また、多量排出事業者に排出削減のための計画書等の作成を義務づけているのか。
事務局	茨木市事業系ごみ減量化推進懇話会は、市内の事業者とごみ減量につい

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	て情報交換を行う場である。また、減量計画書については、多量排出事業者に作成・提出を義務付けている。これまで月5 t以上であったものを、より減量化を推進するため、平成24年度から月3 tまで対象を拡大している。
C委員	16ページの家庭系及び事業系のごみ排出量推移のグラフをみると、家庭系よりも事業系のごみ排出量が多いが、何か要因はあるのか。
事務局	大阪府中央卸売市場や食品流通センターがあるため排出量が多くなっており、年間10,000 t程度のごみを排出している。近年は、ごみ減量に努めていただいております、年間8,000 t程度まで減少している。
E委員	立命館大学の新キャンパス開設に伴い、ごみ排出量も増加するかと思うが、何か具体的な対策はあるのか。
事務局	立命館大学には、一事業者としてごみの減量を依頼していく予定である。
B委員	自然災害に伴う廃棄物処理の対応はどうか。
事務局	災害に伴う災害廃棄物の量が、環境衛生センターの処理能力を超えるようであれば、一時保管をしなければならないため、茨木市地域防災計画の中で、臨時集積地の選定を進めている。ただし、本市は溶融炉であるため、他の自治体のように不燃・可燃等の分別が不要であるため、一時保管を行うケースは限られてくると思う。
B委員	台風11号では自然災害は発生しなかったのか。
事務局	災害廃棄物というかたちでは発生していない。
	『取組方針（2） 再資源化の推進』
会 長	46・47ページ、『取組方針（2）再資源化の推進』について意見等はないか。
C委員	16ページの再資源化率の推移のグラフについて、平成23年度から平成24年度にかけて再資源化率が大きく低下しているが、何か要因はあるのか。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	また、要因があるのであれば、環境基本計画にも記載しておくべきではないか。
事務局	本市の再資源率には、缶・びん・ペットボトルの「資源物」及び「古紙類」の他に、熔融処理後に生成するスラグ等についても再資源化量としている。このスラグ等の量が減少したため再資源化率が減少している。
C委員	<p>それでは、分別徹底により再資源化率が低下したとも考えられるため、スラグ等を再資源化率とするのはどうか。スラグ等の量については分けて記載するなど、より市民の取り組みが反映されるよう記載内容を検討してほしい。</p> <p>また、スラグ等についても、再資源化後、どのように活用されているか記載した方が市民等にわかりやすくないか。</p>
事務局	記載内容について検討する。
B委員	再資源化されたスラグ等は、どのように処理しているのか。
事務局	事業者へ売却している。
B委員	売却金額はどのくらいか。
事務局	売却金額は、平成25年度で、スラグが約139万円、鉄分が約90万円である。
I委員	<p>同様の意見になるが、スラグ等の再資源化に関しては、市民が関与できない部分である。このため、16ページのグラフもそうだが、市民の取組がより反映される分別の徹底などの部分を中心に記載してほしい。</p> <p style="text-align: center;">『取組方針（3） 適正処理の推進』</p>
会 長	48・49ページ、『取組方針（3）適正処理の推進』について意見等はないか。
I委員	ごみ処分場に関して「新しい炉の建設が進んでいます」、「長寿命化計画」とあるが、新しい炉を今後建設するということか。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	現在の炉は長寿命化しており、今後10年以内には新炉建設を予定している。
I 委員	スラグ化するためにコークスを使用すると、CO ₂ 排出量が多くなるため、環境負荷の影響が大きい。『⑥環境指標』では収集経費や処分経費を環境指標としているが、環境面全体からみた環境指標を加えてはどうか。
事務局	環境指標について検討する。
C 委員	最新の炉では、茨木市の現在の熔融炉と比較し、発電効率が20～30%程度向上している。スラグ等の再資源化を優先する場合でも発電効率の高い炉など、CO ₂ 排出量を考慮して炉を検討してほしい。
事務局	今後、いただいた意見等を踏まえ、炉の性能・技術等の情報について収集をしていく。
I 委員	ごみの収集については、部分的に有料化を検討してはどうか。
事務局	現在、減量化が進んでいることから、特に有料化について検討はしていない。
	『第3章 計画の着実な推進』
会 長	『第3章 計画の着実な推進』について意見等はないか。
F 委員	『(2) 環境指標』中の『指標の方向』の矢印が分かりにくい。現状の数値が「良い」か「悪い」かの2種類にするなど、記載内容を見直してほしい。
事務局	記載方法について検討する。
C 委員	矢印だけでなく、具体的な数値を設定した方が良いのではないか。実施計画を策定する場合も、数値があれば策定しやすいのではないか。
事務局	目標数値がある分野とない分野があり、すべて数値目標を設定することは難しいため、環境基本計画では指標の方向を示すこととしている。毎年、

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	指標が示す方向に向けて具体的な事業を実施計画の中で定め、推進していくこととしている。
B委員	同様の意見だが、環境指標について、方向性だけではわかりにくい。現行環境基本計画の進捗状況や国・府等の同様の項目を参考にする等で数値目標を設定してはどうか。
I委員	環境指標については、過去の推移を掲載したり、個別計画のあるものは「具体的には個別計画に数値を参照」等の文言を追加する等、市民が見ても分かりやすくなるよう、記載内容を検討してほしい。 また、他の委員と同様の意見だが、数値目標を設定すべきではないか。目標値がないとPDCAサイクルでの進行管理は難しいのではないか。
事務局	他の関連する計画との関係があり、ここで数値目標を設定してしまうと他の計画を拘束してしまう可能性があるため、数値目標を一方的に設定できない。
A委員	先ほどの不法投棄の発言に関連するが、不法投棄と聞くと一般的にはごみ処理を連想するが、本計画では『基本施策1 いごちの良生活環境をたもつ』に記載されている。このため、『基本施策4 きちんと分別で資源の循環をすすめる』にも記載できないか。
事務局	記載内容について検討する。
C委員	全体について、もっと具体的な取組内容を記載できないか。現状分析や課題はしっかりとしているが、取組内容となると、抽象的な表現が多く、具体的にどのような取組をしたらよいかイメージしにくい。
事務局	この『取組内容』を基に、毎年実施計画を策定し施策を推進するとともに、環境指標等を評価することで進行管理を行う。また、これらについては環境審議会においても、提示しようと考えているので、その際は、意見・助言等をお願いしたい。
	『計画全体』
会 長	最後に、計画全体をとおしてご意見等はないか。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
B 委員	環境基本計画の計画期間は何年か。
事務局	3 ページに記しているが、10年計画とする。ただ必要に応じて見直しを行う。
B 委員	10年後の茨木市の環境に関する『目指すべきすがた』について、もっとイメージ画等を用いて、目に見えるような形で示した方がわかりやすいのではないか。
事務局	まち全体のイメージとなると、環境以外の分野にも関連するため、本計画で記載するのは難しい。
H 委員	国の第四次環境基本計画や茨木市環境基本条例にもある「安心・安全」という表現を入れた方が良いのではないか。例えば、茨木市内にも茨木花崗岩という花崗岩があり、地質的にも急斜面で開発すると危険な地域もある。このように、地域の自然環境を理解することは、同時に、その地域の災害リスクについての理解につながるため、環境と「安心・安全」の関連について、表現を追加してはどうか。
事務局	記載内容について検討する。
	【報 告】
会 長	次に、茨木市地球温暖化対策推進部会からの報告をお願いしたい。
三輪委員	<資料 3 に基づき報告>
会 長	これで審議会は閉会とさせていただきます。
	【閉 会】
	以上